

第2部「それぞれの戦争を語る」一部紹介

平成17年、戦後60周年の時に戦争を風化させてはならないという思いの中、「肉声」を収録してそれをもとに作成された冊子です。教科書には書いていない一人ひとりの戦争体験は、大変貴重なものです。この冊子はすでに関係図書館に寄贈されているものですが、ご希望の方には冊子のコピーを送付します。下記までご連絡ください。

●連絡先： 公益財団法人 神奈川県老人クラブ連合会

・電話 045(311)8737

・FAX 045(312)4288

※氏名・送付先住所・電話番号・必要部数を明記ください

●費用： 1部500円(110頁)

※送料、振込手数料別途

「死体を被って難逃れ」

大和市 Oさん 男性(大正13年生)

(あらすじ)

18歳で1年繰り上げ召集された。昭和18年に兄が戦死していたので兄の仇をとるぞと、召集は悲しいというより男としての喜びを感じた。満州国とソ連の国境、東寧という町で6ヶ月の軍隊教育を受けた。昭和19年6月頃のことだった。さらに下士官候補の学校へ入り、丸1年で部隊復帰すると同時に戦闘になった。5月には内地防備に部隊の3分の2が帰国し、1000程が残った。戦死は覚悟の上で5分でも10分でも食い止めろと、私を含む35人が敵を迎え撃つようにと命令された。8月8日午前2時ソ連は降伏を求めたが、応じなかったら24時間後に攻撃してきた。迫撃砲1門を30発程撃ったら敵に見破られて撃てなくなった。10m先に敵、組み合った時もあった。「生きる、死ぬ」は考えなかった。勝つことのみ。天皇陛下の為なんて考える暇ない。20日には慰問袋を持てるだけ持って歩兵の蝸壺で敵を待ち構えた。そこへ古年兵がビールと酒持ってきた。私は空腹に飲んだから酔って、眠ってしまった。気がついたら膝まで土に埋まっていた。相当な人数が通り過ぎて土が落ちてきて、激戦があつたらしい。本当にひどい話ばかりで、今も話したくない位。夜中の襲撃は何回もあった。動く銃剣で刺されるので、死体をおぶって難を逃れた。24日に約30人で陣地脱出した。それから翌年の5月20日まで終戦知らず、山の密林地帯を逃げながら戦闘を続けた。30人の仲間は、戦死や凍傷、自決、途中で置いてきたりで最後には4人になっていた。蛙、媛、鼠と何でも食べた。草だけで2ヶ月生きていたこともあった。昭和21年の8月末に帰国した。

(お話を聞いて)

戦争体験を力強く、時には坦々と、人ごとのように話されるOさん、きのうの出来事のように60年前を生々しく言葉にされるOさん。私も、身内や親戚で同じような体験談を日本昔話のように聞いて育ち少しは知っているつもりでいましたが、あにはからんや、爆撃の音や、砂ぼこり、生臭い空気を五感に感じ、ぐいぐいと重く、暗し、戦場へ引き込まれてしまいました。

昭和20年8月、ソ連と満州の国境、第一国境備隊37名、「戦死を覚悟」で死闘の末、生存者4名の内の一人になり、その後終戦を知らず戦闘を繰り返しながら、飢えと寒さの酷寒地をさ迷い、翌21年9月に日本へ帰還、「本当は言いたくないんだよ」と。地獄のような話はしたくないと時折口にされつつも、よどみなく話をしてくださいました。

あの大東亜戦争は「一体なんだったのだろう」と思うと、ただただ情けなく思えてならないと話す姿に、うなずく以外言葉をかけられない。胸がつまり無性に腹が立っていた。戦争体験が私の財産だという大矢さん、戦争で散った戦友の思いが自分を生かしてくれているのだと、命がけの体験がその後の生き方を大きく変えたと話す口調は81才の老人でなく、前向きに社会のためにと力を込めて話す21歳の若者の語りでした。「戦争はあってはならないもの」、「戦争は絶対してはいけないよ」Oさんの云われる通り、世界の万人が平和を願っていてもおろかな人類は、戦いを止めようとしない。

テープ終了後も、話はずきなかった。今回聞き手としての役目は不十分なものでしたが、日が経つにつれ、あたりまえのように生きていけることに感謝と、胸をえぐられた感情を風化させることなく、今度は私がこの体験談を一人でも多くの人に語れたらと思っています。「真の平和を」子や孫に語り継ぎたい。

(聞き手 Tさん 女性 昭和24年生)

「防空壕の中、ひとり怯えて」

南足柄市 Kさん 女性 (大正14年生)

(あらすじ)

大東亜戦争開戦時は学生だったので、挺身隊として軍の仕事をしていた。その後、富士フィルムに就職。業務部資材課に配属され、材料許可のため国の各省に並んだ。その並んでいる最中に空襲警報で避難、また改めて並び直した。空襲が激しくなり、妹は福島へ学童疎開し母と弟は長野へ、父と私は家に残った。食べ物がなく困った。父は警防団として町を見回っていた。私は母の着物を持って埼玉の農家へ食料と交換に行った。お米はなかったが、さつま芋や小豆には換えてもらえた。帰りには警官隊のいない一駅先まで歩いた。さらに空襲が激しくなって各家に防空壕を掘ることになり、畳を上げて一人用の防空壕を掘った。夜は灯火管制で薄暗い中、父が見回りに出てしまうと、私は防空壕の中、一人でおびえていた。そして東京大空襲。急襲だったので私は会社において、防空壕で真っ赤な空

を見上げていた。家も焼かれ、焼け野原になった。2、3日は煙が燥っていた。南千住の伯父達が隅田川に逃げたと聞いたが、未だに消息はわからない。私は小田原勤務になり、父は残ると言ったので一人で小田原へ。その後終戦。10月頃家族が家に帰った。戦時中は食べることが幸せだと思っていた。生きが良かった。会社帰りに上野の地下で雑炊を食べて帰った。1杯5銭位だったと思う。今の500円位かな。それでも沢山並んでいた。戦争が終わって一番ホッとしたのは、電気が点いて明るくなったこと。進駐軍が来て社会がガラッと変わった。

（お話を聞いて）

祖母の話を聞いて、今は何処に行っても色々な食べ物がある、いつ爆弾が落とされるといふ恐怖が無い今現在このことが六十年前にあったとは教科書、TV、映画などで知っただけでした。身近な祖母の話を聞いて、背筋がゾットする思いをしました・・・身内が亡くなったり、毎日恐怖がつきまったり、食べ物が無かったり、今を生きている私では、絶対に耐えられない生活だと思いました。前線だけが戦争じゃないんだなって、話を聞いて思いました。戦争の話を聞いて、どれだけ大変な思い・・・どれだけ辛い思いをしたのか心にしみました。でも戦争未体験者の私はどうしても理解は出来ませんでした・・・祖母の話し方、話している時の顔を見ていると、その当時の人々の気持ちになれたような実感がありました。

録音後、祖母は何度も「辛かった・・・」と、ため息を吐きながら何度も言っていました、いつも明るく元気な祖母が、僕が今まで見たことの無いような悲しい顔に一瞬変わったのが、とても印象深かったです。戦争が起こらないように世界中の人々が手を握り合う時代が来ることを祈っていきたくいと強く思いました。

また、祖母のような戦争経験者の体験を次の世代にも話してあげたいと思っています。その当時の思いを心の奥底にしまい、いつも明るく元気な祖母をいつまでも大切にしていきたいと思いました。

（聞き手 Kさん 男性 （昭和54年生）

目次

ご挨拶 (財)神奈川県老人クラブ連合会 理事長 K氏
肉声史「戦争を語る」作成実行委員会 委員長 S氏

第1部 座談会

横須賀市 M氏(女) 子らの力、親の力、命の力
鎌倉市 T氏(男) 戦いを終えて日が暮れて
座間市 S氏(男) 酷寒シベリアを生き抜く
司会 8(株)百歳万歳社代表取締役編集長 U氏

第2部 それぞれの戦争を語る

横須賀・三浦ブロック

横須賀市	A氏(女)	東京大空襲 さながら地獄絵	11
	K氏(男)	怒りと悲しみの中の3年間	12
	I氏(男)	田の水すすり猛訓練	13
	S氏(男)	マイナス40度 生きて帰れるか?	14
鎌倉市	T氏(男)		
	O氏(男)	座談	
	N氏(男)	戦争体験から考えること、訴えたいこと	15
	H氏(男)		
	T氏(男)		
逗子市	U氏(男)	流れ流れて俘虜生活	17
	I氏(男)	友のすすり泣き聞く捕虜生活	18
	I氏(女)	富士山を見て祖国帰国を実感	19
	K氏(女)	言葉失しく泣くことも忘れた私	21
三浦市	S氏(女)	とにかく戦争は不自由な生活です	22
	O氏(男)	戦は人の性格を変えていく	23
	K氏(男)	現地で見る月、故郷への想い	24
	K氏(男)	お国のために 常に死の覚悟	25
葉山町	T氏(男)	勝ち組は風呂、負け組はランニング	26
	S氏(男)	水上特攻隊 終戦 命助かる	26
		湘南ブロック	
平塚市	M氏(男)	戦時はずらく、戦後なおつらく	28
	S氏(男)	平塚空襲 煙くすぶる中家さがし	28
	K氏(男)	石炭の山に隠れて難を逃る	29

藤沢市	K氏（男）	ノルマで変わる食生活	31
	O氏（男）	爆弾、穴埋め、また爆弾	31
	K氏（男）	うれしかった出征見送りと差し入れ品	33
	O氏（男）	焼夷弾はザーという音で降ってきた	34
	N氏（女）	地面がノート、苦しい疎開先の生活	35
	T氏（女）	引揚船 乗り遅れで命拾う	36
茅ヶ崎市	A氏（男）	斬り込み作戦隊長戦死、始まるジャングル生活	37
	N氏（男）	内地生活食料苦勞	38
伊勢原市	N氏（女）	美しくも恐ろしい艦砲射撃	39
	K氏（女）	敗戦、点灯、平和を感じたひと時	40
	K氏（男）	聖戦などなし 失うものあまりに多し	41
	O氏（男）	時代に翻弄された青春	42
	S氏（女）	神風は存在しない	43
寒川町	K氏（男）	体全体血しぶきに 恐ろしや落下傘爆弾	44
大磯町	M氏（男）	悲しかった弟のような初年兵の死	46
	H氏（男）	最前線 思わず祈る 千人針	47
二宮町	S氏（女）	疎開先 ご飯がお粥に お湯粥がゆに	48
	Y氏（男）	トンネルを掘りで備えるアメリカ兵上陸	49

県央ブロック

厚木市	H氏（男）	戦闘機 雷電をつくっていた	51
大和市	K氏（男）	まさに九死に一生	52
	O氏（男）	死体を被って難のがれ	52
	T氏（男）	終戦直前 ソ連侵攻	53
海老名市	S氏（男）		
	M氏（男）		
	H氏（女）	四人四色の戦いがあった	54
	S氏（女）		
綾瀬市	M氏（男）	軍隊の生活が人間形成に	56
	T氏（男）	軍艦高雄乗船勤務は今も誇り	57
	S氏（男）	志願、戦わずして収容所生活	59
	O氏（男）	零下40度 トイレは外の掘立小屋	59
愛川町	K氏（男）	兵器は大正15年製の歩兵砲	61
	S氏（男）	夜露を舐め野草を食べての3日間	62
	I氏（男）	山本五十六出撃を見送る	63
	N氏（男）	軍隊は消灯ラッパでほっとする	64

足柄上ブロック

南足柄市	K氏（女）	防空壕の中、ひとり怯えて	66
	U氏（男）	食べることさえ出来れば毎日が続く	67
中井町	K氏（女）	7歳の女の子の戦争	67
	A氏（男）	悲しい戦争　なだ　作る喜びを知る	68
	O氏（男）	国民服着てゲートル巻いて戦闘服で勤労奉仕	68
	U氏（男）	討伐は軍服でなく中国服で	69
大井町	匿名	つらい軍隊生活、思い出すのは母の顔	69
松田町	Y氏（女）	米兵の顔見えた艦載機の空襲	71
	O氏（男）	残したいこと　それは世界の平和	71
	K氏（男）	戦時の事務仕事　悲喜こもごも	72
山北町	S氏（男）	潜水艦に撃沈され　筏に掴まり12時間	74
	S氏（男）	終戦後にもあった戦闘	75
	A氏（男）	外地での少年期　遊び相手は犬とロバ	76
	S氏（男）	海防艦34号（みよちゃん）	77
開成町	T氏（男）	戦地はとにかく食べ物の苦労が大	78
	I氏（男）	戦時最後は自給自足の生活	78
	K氏（女）	配給生活を空襲が直撃	79

西湘ブロック

小田原市	N氏（男）	戦争は時として死をも忘れる	80
	E氏（男）	苦難は無条件降伏から始まった	81
	I氏（男）	悲しい誉の家	82
	S氏（女）	帰国ご苦労様　の横断幕にただ涙	83
箱根町	K氏（男）	虎は死んで皮残し、人は死んでシラミ去る	84
	W氏（男）	戦争　平気で人殺しする異常な世界	85
真鶴町	N氏（女）	火薬の材料？髪を供出	86
	S氏（女）	自殺の仕方も学ぶ	86
	A氏（男）	戦地で悲しい夕焼けカラス	87
	M氏（男）	行けば必死　これが戦	87
湯河原町	K氏（男）	技（運転）は身を助く	88
	F氏（男）	日本が生きるための戦争だった	89

県北ブロック

城山町	K氏（男）	炎天下の重労働　汗なめ　うまい！	91
	T氏（男）	陸で海で前線で	91
	S氏（男）	行軍　激戦　今も浮かぶ友の顔	92
	K氏（男）	今際の際　呼ぶは母の名	92
	A氏（女）	知らずに作った人間魚雷	93

	Y氏（男）	海面に突然潜望鏡 被弾 撃沈 ……………	93
藤野町	M氏（男）	収容所 草食べつくし やっと生き ……………	94
	T氏（男）	山中を逃げて逃げて命永う ……………	95
	A氏（男）	内地も外地も戦は続く ……………	96

資料編